

# ブルーグレーの肖像

当事者から見たHSPの日常

天川 浩

## 第6回 本題の前に文化論を入れる筆者のKYさ

今回は歴史的な偉業を達成した人間の  
中にもHSPの可能性のある人間がいたと  
いう事例をあげてみました。かなりの数の  
偉人と呼ばれる人間がHSPだったよう  
です。

彼らのように、HSP気質の人間は、局面  
に立たされた時、人の心の微かな動きを見  
逃さず読み取り、その人との関係の先を予  
測していく、少々厄介な性格も、ある重大な  
決断をするのには、うまく機能してきま  
した。

HSP気質は研究の対象として非常に新し  
くここ20数年の間に急速に深い考察がな  
されるようになったため、いわば現在も「黎明  
期」と呼べるような新しい分野であることは  
間違いない。なので、30年前以前には  
HSPという言葉すら存在しなかったのであ  
る。もっと以前、100年前、それ以前にも  
HSP気質は存在したであろうが、おそらく、  
取り分けて注目されるような事象ではな  
かった。しかし、人間が発生した直後から  
HSPはあったのではないかと思われる。今  
よりも、人口が少なく医学的な安全も、食料

的な安全も確保されていない時期であった  
ため、共同体の全ての人間が大胆で危機  
回避をしない選択をした場合、それは直  
接、死に直結して人口を減少させる要因に  
なりかねなかった。そこで、ブレーキをかけ  
る役目の人間も存在しなければいけない  
状態であったと思われる。もし、太古の人  
間の発生した時点でも、5人に1人、HSPの  
人間がいたならば、おおきな決断をする場  
面で、慎重論を唱えていたことが想像され  
る。少なからず、危機を回避するのに一役  
買っていたであろう。前号で、HSPの中に  
リーダーシップを持つ者も多数、存在してい  
ると記述したが、大昔でもそういった、HSP  
気質を持ったリーダーがいたことだと思  
う。そういった慎重なリーダーが、集落の安全  
も考慮しながら生活の幅を広げていったこ  
とが予想される。

近代になって、官僚制や軍隊制の政治体  
制が敷かれ、戦争状態に突入した場合、大  
胆で危険を顧みない選択が必要になってき  
たため、HSP気質の消極的に思える慎重  
論は採択される機会が減少したと思われ  
る。命を顧みて、領土を失っては元も子も  
ない時代なら、そういった慎重性の排除も  
やむを得なかったのではないだろうか。

人類の歴史を振り返れば、幾多の戦争が繰り返された歴史であることがわかる。今でこそ、世界大戦は起こりえない均衡状態であるとはいえ、ほんの7~80年前まで世界を巻き込んだ戦争が繰り返されていたのだから…。

その後もベトナム、中東、東欧、アイルランドなどでも紛争が勃発し、人間が戦乱の脅威から完全に解放されたとは言えない状態である。

とはいえ、今、現在、グローバル化が光の速さで進み、かつては戦争の相手国であった者同士が顧客の関係にあるような時代に突入している。それも、食物のような一次生産品を売買しているのではなく、大企業や国家の安全システムなどが取引されるような時代になっている。

私がこの文章を打っている、この瞬間にさえ、いまだかつて想像もできなかった画期的な取引が契約されているのかもしれない。当事者もどう進むか、どんな軌道を描いて発展するか、全く未知の諸外国との関係が、これからも創出されていくのであろう。どんなことが起こるのかわからない、総ガラス張りでありながら、一センチ先が見通せない奇妙な時代に突入していつているのだ。それは、直接感じ取るには10年も20年もかかるような曖昧なものであるため、一般の生活を送る人間には、なかなか知覚できない「静の時代転換」なのである。

戦争によって領土が塗り替えられる、国旗が変わる、為政者が変わる、制度が変わる、そのように目に見える劇的な変化は全くないが、それ以上に劇的な変化が音もなく発展し、やがて気づかぬうちに生活の一部になっていくような、ある種、騙し絵のような未来が、毎日、音もなく滑るように我々の世界に広がっていつているのである。

これは、全ての人類に普遍の変化であり、受け入れる、受け入れないを問わず、ある日突然やってくるのである。

いまや、老若男女問わず、電子計算機をポケットに入れている時代である。スマートフォン。とても便利である、さっと指先でタッチすれば、一瞬で世界とつながることができる。この中に、スマートフォンを持つまい、と抵抗を試みた方はいらっしゃるだろうか？私は、長い間、いわゆる日本固有の携帯電話、ガラケーで生活を続けていた少数派であった。ある日、ガラケーのディスプレイが壊れた。修理に行くと、もうこのガラケーの生産が終了してしまったので、供給できないと言う。それを期に家族で相談した結果、格安の通信会社へ乗り換えようということになった。そして、そのラインナップにはスマートフォンしかなかった…。

受け入れざるを得ない変化であった。私はまだまだ、ガラケーで生活ができたはずだった。何の支障もなかったのだから。しかし、時代がそれを許さなかった。突然、時代の転換に巻き込まれたのである。他にも、定期券や、ポイントカード、自動レジ、これ

らは我々が要求せずとも、向こうからある日突然やってきて、今日から使えと言われたような代物ばかりである。それしか、支払う、あるいは、使用することができなかった場合、我々はそれを使うことを余儀なくされている、と言えるのではないだろうか？

たしかに技術の革新により、我々の生活にはたくさんと選択肢ができた。

タクシー乗り場に行かずとも、自分のスマホから一番安いタクシー会社を選んで呼べる。満員の回転寿司に並ばずとも、出かける前に自宅から、店に予約を入れておけば、着いてすぐにテーブルに案内してくれる。

これは格段の進歩である。10年前にはなかったことである。

私の小さい頃、40年ほど前には、切符は手売りだったし、駅員の主な仕事は、その切符にハサミを入れることだったなんて、今の20代に言っても「ジブリアニメの設定か何かですか？」と真剣に聞き返されかねない。

しかし、今は切符はタッチパネルでの販売機しかない。その販売方法しか無くなってしまったのだ。選択肢がなくなったのだ。

年老いた人が切符の販売機を前に立ちつくしているのを見たことも度々ある。

技術の発展は時に選択肢を減らす。

長々と某国営放送の教育番組のような説明を続けてきたが、時代の移り変わりというのは、音もなくやってきて、ずっと前からそこにいたような顔をして定着していく。何千年も前から繰り返してきた事実なのである。

しかも、それは利便性を伴っており、慣れてしまえば以前の形態には戻れない不可逆的なものであると言える。今更、トヨタが石炭で動く蒸気機関の自動車を開発することがないように...

とりざたされるトレンドは「AI」による生産・生活の「革命」である。

AI=人工知能。なんとも聞きなれた陳腐な言葉に思える。SF映画で、ドラマで、度々登場し、きっと、それは定着しつつあるからなのだと思う。

人工知能の研究は随分と長い時間を費やし、最近では等比級数的な発展を遂げている。

香港や上海には無人のコンビニがあり、AIで制御されたパトロールドローンが工場のラインの見回りをしている。

我々がリビングでYouTubeを見ている間に、AIは、秒単位であらゆるシーンに配置され、新しい機能を学習し、拡散していく。

文字通り、音もなく...

AIの大きな特徴として、人間と同じような判断が下せるというものがある。

彼らは人間の代わりができる。しれっと彼らは我々の生活に密着し、我々の生活の向上という恩恵を与えてくれる。

何も問題はないではないか…。

しかし、そこで私は思う、これからの危機はどんなものになるのか？

事が発展すれば、危機の種類も様変わりする。

つまりこれからは、人間とAIがあらゆる場面で判断を下す存在になるということだ。もうすでにAIに判断をゆだねている分野も存在する。

スマホの普及がスムーズに、そして、急速に広がっていったことを思うと、複雑な判断を下す存在がAIにとって代わる日もそう遠くないのだ。

その時、人の心はどういった影響を受けるのだろうか？今までは、機械だと思っていた存在が、例えば、自分の健康状態や営業成績の査定を人間特有の私情を挟まずに判断してきた時、人間はどういった反応をするのだろうか？

人の心の反応が大きく変化する時、これは福祉のターニングポイントだと言えるのではないだろうか？

そして、人間が便利なものに依存していくスピードも著しいものがある。AIには無限の可能性があるとされている。可能性の

数だけ依存症の発生する可能性があるだろう。

もしかしたら、生身の人間に会う回数よりもAIと仕事する回数の方が多いい日も出てくるかもしれない。人間となんら変わらない挨拶や返事してくれるAI達に人間味を感じ取るには個人差が生まれる可能性もあるだろう。適正がある者となない者、その間にはどんな関係が築かれるのだろうか？未だかつてない状況に、予測の域を超えない推論が各地で展開されるだけである。

気づく存在の可能性

あ…HSPの話だったな…この文章は…

ここから、少々強引にHSPの話を展開せねば…。

世の中が未知の方向に向かっている、今言えるのは、会う回数が減っていく周囲の人間に対して、より敏感に心の機微を感じ取り、そこに起こりうる未来を予測する必要があると、私は思う。

ここでHSP気質は、時代に、うまくはまってくるのではないかと予測する。

AIが判断できない微かな心理の揺れ、もしかしたら起こるかもしれない個人の心の葛藤…新しい時代に、よーいドンで全ての人類がスタートを切れる訳ではない。もちろん年代や地域、仕事内容や性格、あらゆるライフスタイルの人間が全て均一に、時代

の恩恵を享受できる訳ではない。取り残されたり、受け入れられなかったり、ストレスを抱える人間が出てくるかもしれない。

そんな時に、それに気づき、手を差し伸べていける存在が、これからの時代に必要だと思う。

目に見えないネットワークの中に組みこまれた生活と、人間ではない存在との関わりが今後展開されていくことは必至であると予想される。

今まで以上に、複雑な世の中と、AIを交えた複雑な人間関係を我々はまだ経験していません。

どんな世の中になるか予想できない不安と期待が入り混じった現代。

より人間の、HSPの可能性が試されていくことになるだろう。